

新年 町長に聞く!

1月号発行にあたり、大西勝也黒潮町長に2012年の豊富など、今後の町政についてインタビューを行いました。



Q 2011年を振り返って、一番印象に残っていることは?

町長 やはり、3月11日の東日本大震災です。実際に被災地に行ってみて、市町村の対応には限界があると感じました。まず、これまで以上の防災対策が必要です。短期間で町全体の防災レベルを底上げし、その後、完成度を上げていきます。避難道の整備と併せて、避難訓練を繰り返すことが重要と考えています。

Q 庁舎の移転先も再検討になりましたが。

町長 そうですね。でも、基本的には土佐入野駅前の再開発の方向性は変わっていません。商業機能は、これまでの利便性を考えると駅周辺にあるべきと考えています。

Q 2012年はどんなことをやりたいですか?

町長 昨年1年間、いろんな部署に提案してきた内容を、まとめていきたいと思っています。特に「防災」

「産業振興」「高齢者福祉」「国保」「公共交通」の5点は、自らがリーダーシップをとってやっています。

「高齢者福祉」では、「住み慣れた地域で健康に楽しく暮らす」ために、「あったかふれあいセンター(以下「あったか」)を核にした黒潮町福祉モデル」という多機能的な行政サービスを作っていきたいと考えています。現在、拳ノ川地区でモデル的に実施している「あったか」を、今後数年かけて町内全域に広げ、福祉だけでなく、地域づくりの拠点として活用します。

また、例えば「あったか」に集まった人々がデマンドバスを利用するなど、いろんな分野を組み合わせ、最適な方法を見出し、いきたいと思います。そのためには、具体的なモデルを作り、行政主導で住民を巻き込んでいく必要があります。

Q 10年後の黒潮町を考えると、何が一番重要ですか?

町長 やはり、雇用の確保が課題です。黒潮町では、温暖な気候風土に適した施設園芸が盛んです。この強みを生かすため、今年度中に「農業公社」を設立し、新規就農者を育成して、町内で独立するまでの支援を行うことを考えています。行政が雇用先を作るのは限界があるので、民間主導で「起業」を増やすことが雇用を増やす道だと思っています。

また、漁業や林業など、ほかの1次産業に対しても、それぞれに合った振興策を考えています。

Q その他の産業はどうですか?

町長 公共事業では、一般国道大方改良と高規格道路(高速道路)の整備があります。大方改良は生活道として利便性・安全性を向上させるために必要であり、高規格道路は災害などで国道が通行できなくなった場合に必要です。それぞれ、早期に着手・完成できるように強く国に要望していきます。

Q 最後に、住民の皆さんへメッセージをお願いします。

町長 これまでの行政サービスは、すべての地域に公平にサービスを導入することが求められてきました。これからは、80の力がある地域には20のサービス、20の力しかない地域には80のサービスを提供して、どの地域も100とする。そうやって、サービスのレベルが一定になることが公平という考えに変えていく必要があります。今後は、地域のつながりを強くし、一人ひとりが幸せに健康にいられるように、地域の声を聞いて、血の通った温かい行政サービスを提供していきたいと思っています。そのため、住民が参加する場を意図的に作っていきますので、積極的に参加していただき、一緒に新しい公共を模索していきましょう。

